市長と語ろう　タウンミーティング（石田）

平成２３年１１月２１日（月）

市民Ａ

浜石田のＡといいます。

少し寂しいような感じがしましたので立ち上がりましたけれども、先ほどの総合計画から見てみますと、道路問題が非常に要望が多く、40％の率ではいと言われます。私のところは浜石田といいまして、黒部市の中では一番西側に存在する寂れたまちでございますけれども、特に80前後の高齢者が非常に多くて、老齢者のまちとなっておりますが、そこでいつも要望しているんですけれども、消雪装置の完備をできるだけ早くやっていただかないと、お金を出しているのに死んでしまってから完成じゃつまらないと思いますので、その点、ひとつよろしくお願いします。

市長

ありがとうございました。

消雪工事の早い進捗をしてほしいというご要望だったんだろうと思いますが、今現在、基本的な考え方といたしましては、新規の消雪工事は、黒部市とすれば基本的には行わないという考え方でおります。その中で、今まであったもののリフレッシュなどを優先させていただくのと、それから、合併前から計画されていたものについては行うということであります。その１つが、今、浜石田地区などで行われている消雪工事でありますので、延長がかなり長いものですから少し年数がかかっておりますが、これも計画的に進めていきたい、できるだけ早くやれるように努力をしていきたいというふうに思いますので、その点、ご理解いただきたいと思います。

市民Ａ

非常に高齢化していますので、よろしくお願いします。

事務局

Ａさん、それでよろしいでしょうか。

市民Ａ

どうもありがとうございます。

事務局

ほかにございませんか。

市民Ｂ

石田のＢです。

先ほどは、例えば上下水道料金の一般会計からの繰り入れを減らすということや、介護保険についても同じような感じで言われました。ということは、高くなるということなん

でしょうね、簡単に言えば。それをお聞きしたいのと、全然話は違いますが、今後の幼稚園、こども園も含めて、幼稚園、小学校、中学校の統合の計画、わかる範囲で教えていただけないでしょうか。

以上です。

市長

まず、上下水道料金の件につきましては、例えば水道でも、市の水道を利用している方と、各地区の簡易水道なり、あるいは井戸水を使っておられる方といろんな方がおられるわけでありますので、一般会計からの過度な繰り入れというのは、市全体とすれば不公平感があるということ。さらには、先ほど言いましたように、今年度値上げをさせていただいたんですが、それでもあまりにも各県内の水道料金と比較しても格差がある。一番高い地区、西のほうの市なんですが、そこと比較しても３分の１というようなところまでの、そういう状況を続けながら、一般会計から何千万円も繰り入れしているというのは自然な状態だろうかということを我々は見直したわけであります。

それと、簡易水道事業と言いましたのは、宇奈月地区の水道が簡易水道ということでありますので、そこらとの料金のバランス、あるいは今まで黒部市の水道料金というのは、使えば使うほど単価が高くなるというような料金設定でありました。これは企業会計ですから、１つの企業としてそこで独立採算がとれるような仕組みをつくっていかなければならない中で、たくさん使ったら単価が上がるというのは非常に不自然な状態でした。

皆さん方も買い物をされるときに、たくさん買ったら、少し料金、単価が下がるというのは自然なのに、今までの料金体系は、たくさん使ったら単価を高くして負担を多くしていたということも、この時点では、それはそれで考え方はあったんです。そのためにはたくさんの設備投資がかかるから、たくさん使う人には単価を上げようという考え方もあったんですが、企業会計とすれば、私は不自然だろうというふうに思っておりますので、名水の里黒部市ですから、上下水道料金を他地区よりも安くするという、安くサービスを提供するということは大事なことだというふうには思いますが、あまりにも不公平感があったり、不自然な形で運営していく、経営していくというのはいかがなものかなというふうに思いますので、その辺は市民の皆さん方にもご理解をいただきながら、少しずつ見直しをさせていただければというふうに考えております。

介護保険の件につきましては、県内で保険料が平均3,900円というのは一番最も安い料金です。ただ、安ければいいのかということも考えなければならない。安いということはサービスが少ないということなんですね。例えば、施設をたくさんつくってたくさんの方に入所していただいたら、それは保険料でも賄うわけですから、当然保険料は上がります。ですから、今、たくさんの待機者がおられると言われている中で、今、第５期、平成24年度からの新しい計画期間につきましては、施設も計画的に増やしていきたいというふうには考えておりますが、施設入所と在宅のバランス、あるいはそういう介護サービスと保険料の負担のバランスを見ながら進めていかなければならない。

今日は、隣の市の方はおられないと思います。保険料が最も高いのは魚津市なんです、県内で。4,800円です、今。黒部市は3,900円。1,000円近く格差がある。魚津市が高いから悪いのかといったら、そうじゃないと私は思う。一概には言えない。施設が多いんです。

施設が多くて、たくさんの方々がそういう施設入所などをやっておられるものだから、当然保険料は高くなるということでありますので、安ければいいというものでもないし、どの辺でバランスをとっていくかということでありますから、もっと高くしてもいいから施設を増やして、待機者は１人もおらんようにしてくれと言われるんだったらそうすればいい。

平均保険料で、大体100床増やしたら、毎月１人400円程度増えます。例えば、100人待機者がおるんだから、100床増やしてくれと言われたら、それをつくったら、平均保険料は大体400円上がります。それでもいいよと言われるんだったらそうするし、今、一遍にそこまで増やしたり高くしたりできないから、その辺は段階的に進めていかなければならないなというふうに思いますが、しっかりとその辺の説明をし、皆さん方がそれでいいと理解されるのであればそういうふうにしていく、こういうやりとりの中で、そういう今後の方針を決めていくということが大事ではないかなというふうに思っております。

もう一点言われたのは、学校の統合の問題ですね。学校の統合につきましては、田家地区などの方、東布施の方もおられると思いますので、お願いしているのは、平成26年度から東布施小学校と田家小学校の統合をお願いしております。地区の説明もさせていただいておりますし、それまでにやらなければならない耐震化などもあり、例えば、先ほどご報告しました田家小学校が耐震化になっていないところがありますので、そういうものが当然それまでに、住民の皆さんがしっかりと進めるということであれば、それまでにはそういう対応はしていきたいというふうに思います。

前沢小学校と三日市小学校の統合の話も地域で説明をさせていただいておりまして、そこにつきましては平成30年ごろまでにというお話をしておったんですが、地区からはもっと早くてもいいというようなご意見もありますので、ＰＴＡ、あるいは各それぞれの地区の振興会などの皆さん方にしっかりと説明をし、どのタイミングで統合するかということにつきましては、やはり積極的に進めなければならないというふうに思います。

これも教育委員会にお願いしているんですが、いつまでにどういうふうにするというようなことを言うには、やはり子供たちにとってどうあるべきかというような、学校の規模だとか、教育のあり方、あるいはいろんな部活動、スポ少の部活動などに対してどうあるべきかというようなことをしっかりと考えて、それを住民の皆さん方に説明をし、理解を得ながら進めていかなければならない問題ではないかなというふうに思います。

幼稚園につきましては、今現在、こども園以外は、三日市幼稚園と中央幼稚園と２つの幼稚園がありますが、ここにつきましては、今年度から中央幼稚園の耐震化、増改を進めていきまして、25年度から１つの合わせた統合幼稚園にしたいというふうに考えておりますので、今年度、来年度でその準備をするというふうに考えております。

保育所につきましては、現在のところ統合の具体的な計画はございません。民営化に対しては少し検討をしておりますが、統合の計画はまだ現在ないということであります。

以上です。

（お聞きになりたかったのは）中学校でしたか。

市民Ｂ

耐震化というのはどれぐらいに考えています。

市長
　中学校につきましては、まず、将来、中学校の統合については具体的に考えなければならない時期にはもうそろそろ来ていると思いますが、さまざまな意見がございますので、具体的な協議は今現在のところございません。ただ、耐震化については、桜井中学校が校舎、体育館などができてもう50年近くたっていますので、まずは桜井中学校の耐震化、改築を行おうということで考えておりまして、これもできれば、今から準備等で数年かかりますので、平成27年度ぐらいから具体的な工事にかかれればいいかなというふうに考えておるところであります。

事務局
　Ｂさん、よろしいでしょうか。

市民Ｂ
　耐震化工事を桜井中学校がもしした場合、その間に統合の話が浮かんでくれば、もちろんその場所に中学校は残すということになるのですか。

市長
　中学校の統合の中で、桜井中学校が最も生徒数が多いし、今後の見通しを考えても、桜井中学校の位置につきましては、そこはあまり動くということは考えておりません。それ以外の中学校で、今後、統合の話をどう進めていくかということが必要ではないかなと思います。

事務局
　よろしいでしょうか。
　ほかにございませんでしょうか。

市民Ｃ
　岡のＣです。
　先ほど、先日、小水力発電の第２回のサミットが開かれたんですが、その中で、黒部市の紹介のところで、石田のほうが点、点、点となっていたんですけど、石田の駅が、その辺は新幹線もできるんですが、そうすると、ＪＲのほうが第三セクターになりますし、その辺が地鉄も含めてどのようになっているのか。
　それと、ＪＲのほうも第三セクターになるというのは、今のところはグルっと回らないと駅前しかないので、今はどこも橋梁化、それから、表、裏がないように、アクセスがないようになっているので、その辺も含めて、どのような計画を持っておられるのか聞かせていただければと思います。

市長Ｃ
　小水力サミットでの映像に点、点、点。黒部支線の復活のところの点、点、点ですか。

地鉄から、昔あったＪＲ黒部駅までのところの点々がついていたということを言ったんですか。

まず、並行在来線の件につきましては、県が単独で三セクで26年度開業と同時に、今のＪＲ線が並行在来線で運営するということを表明されておりますので、そのように進んでいくと思います。並行在来線になったときの、今のＪＲ黒部駅の東側と西側の関係につきましては、西側からスムーズに電車に乗れるような整備は必要だというふうに思っております。それが、連絡通路なのか、橋上駅なのか、どういう形になるかにつきましては、また地元の皆さん方ともいろいろ協議をさせていただいて決めなければならないわけでありますが、西側からパーク・アンド・ライド的に今の石田の海岸部から駅に来られたら、そこで車を駐車でき、あるいはそこまで来て、そこからスムーズに電車に乗れるような、そういう仕組みはつくらなければならないというふうに考えておるところであります。

そこと地鉄との関係につきましては、私は、並行在来線の協議の中で地鉄の議論も一緒にすべきだということを再三県などで言っておりますが、並行在来線の１本のレールを協議するだけでも大変、かなりちょっと難問題でありますので、それに地鉄や枝線の話を一緒に持ち込むとなかなか話がまとめられないということで、今までのところは、地鉄の話はなかなかまともな議論にはなっておりません。

ただ、黒部市としてでも、魚津市さんももちろんなんですが、地鉄が今後どうなっていくかということについては大変大きな問題だろうというふうに思いますので、将来の並行在来線と地鉄の相互乗り入れを行うということが大変大事で、それをしっかりとこれから県のほうなどに働きかけていかなければならない。

相互乗り入れということはレールがつながるということですね。乗りかえをするというんじゃなくてレールがつながらないと私はだめだと。それが、昔のように黒部支線が復活するようにＪＲの黒部駅でつながるのか、あるいは魚津まで行ってからそこでつながるのか、それはどちらにしてでも、とにかくつなげてもらうこと、そしてまた、例えば富山のほうに地鉄で向かうときに１回上市まで上がっている。あれも真っすぐそのままストレートに富山駅のほうに向かうのと、山手のほうに行くときのこの切りかえ、あまりにも時間と料金が地鉄の場合はかかり過ぎているので、もっと真っすぐ、富山へ向かう人のほうが多い、それが行けるような、そういう電車もつくってもらいたいと、そこがやっぱり大事。

魚津と滑川間というのは並行在来線、今のＪＲ線と地鉄は８キロも並行して走っていますからね。それが、両方経営が厳しい中で、両方とも将来的に経営が継続できるかというとなかなか難しい問題。しかも、今までは大きなＪＲ西日本のレールでしたが、これからは富山県として我々も経営参画しながら一緒に並行在来線を経営していくとすれば、両方経営が厳しいものを両方生かしていく、残していくということはなかなか難しいだろうと思いますので、その辺のことにつきましては、石田地区の皆さん、あるいは田家地区の皆さん方など、そこはしっかりと世論をつくっていっていただきたいなと。これは超難問題だと思います。でも、言わなければ、言い続けなければ完全に切り離されてしまうようなことになっているのではないかなというふうに思います。

事務局

Ｃさん、よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

市民Ｄ

東布施のＤですが、８号バイパス、順調にいっておると思いますが、いろいろと予算関係のことで遅れることのないように、一日も早い開通をお願いしたいのが１点と、それから、新幹線ですけれども、今、名前がどういうふうになるかわかりませんけれども、一般公募するかわからない、決まってしまっているのか、東京から来たのなら黒部は玄関口になるわけですから、観光のまちということで、立山アルペンルートの玄関口というふうな、そういうふうな広い意味で、ここでお客さんをおろすような、そういうような考え方で進めていっていただきたいなと、そういうふうに思っています。そこら辺の回答をお願いします。

市長

８号バイパスの整備につきましては、先週も富山のほうの国交省の事務所、そして、新潟の地方整備局、そして、国交省の本庁、そして、財務省のほうにおきまして、とにかく計画どおりやってくれというお願いを再三してまいっております。今のところ新幹線開業までは魚津江口から黒部の古御堂まで供用開始できるものというふうに思っております。

ただ、わからないのが、東日本大震災の影響等で今の政権は何を言い出すかわからないところがありますので、突然、子ども手当と言ったらまた怒られますけれども、子ども手当の地方負担を増やすって、あれ一言で黒部市の負担が１億円増えますから、えっと思いますし、あるいはいろんな経済対策などもいろいろ口を出していますから、そういうことによって地方にあまり影響のないようにしてもらうように、そういうことにつきましても強く働きかけております。

国交省の出先のほうにつきましては、何とか間に合わせるように頑張りますと、とにかく政府の方に予算確保について、特に国会議員の皆さん方に強く働きかけてくれと逆援護をされておりますので、それについては頑張ってまいりたいというふうに思っております。

新幹線の駅名のことにつきましては、まず駅名はだれが決めるのか、これはＪＲ西日本が決めることになります。それで、いつごろ決めるのか、開業前、１年から１年半ぐらい前に大体決定をするというような、これまでのやり方です。そこで、地元から要望を出せばどうなるのかということにつきましては、ＪＲは商売ですから、ＪＲが、よし、わかった、それならいいという名前を要望すれば、そういう風になる可能性は十分あります。ただし、要望を出したからといって採用されなかった例も沢山あります。それは、ＪＲにとって有利な名前かどうかというものは大きなポイントです。地元が幾らこういう名前と言ったって、それが知名度だとか営業的に有利じゃなかったらＪＲは絶対採用しません。そこで、なら黒部市とすればどうするのかということでありますが、私は要望すべきだろうというふうに思っております。それをいつするのかということにつきましては、来年度、どういう組織で、どういう方法で議論をし、そして、来年度末ぐらいにはＪＲさんに対して要望すればいいなというふうに思います。先に言いましたように、ＪＲにとって、ＪＲが取り上げてくれるような駅名にしなければならない。先ほどＤさんが言われたように、北アルプスとか、立山黒部の玄関口、富山県東部の玄関口としてどうあるべきかというこ

とが大変大事。あまり小さな視点だとか、自分たちの地域のことだけを考えたような名前を幾ら要望しても取り上げていただけないだろうなと。

そして、もう一つ大事なことは、地元でもめた場合、こういう名前だ、こういう名前だともめた場合、今までの先進事例でもめたケースは幾らでもあるんです。もめたらどうなるのかと、なかなかまとめ切れなかったらどうなるのかといったら、ほかの先進例からしますと、もめたら県の親方が出てきて、まあまあと言って、大体その中間的な名前を言われるんですね。ほんとうのことを話をしたら、知事かなんかがまあまあと言われて、そして、ならこの辺全体は昔からこういうような呼び方をしているから、こういう名前でどうですかと言って決められると、これはなかなか、それで大丈夫なのかな。だから、あまりもめたらダメだろうと。それで一部のみんなをなだめるような、そういうぼんやりとした名前ではどうかなというふうに思っていますので、その辺の進め方は慎重にしなければならないのかなというふうに思います。

公募したらどうかという意見もあるんですが、話題にはなるけれども、それはよくよく慎重にやらないと、なかなか皆さん方がイメージするような名前にならないケースもあるのかなというふうに思いますので、その辺の議論の進め方とタイミングというのは非常に大事かなというふうに思っております。

事務局

Ｄさん、よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

市民Ｅ

立野のＥです。

新幹線の周辺整備についてお伺いします。私は旅行が好きで、時々いろいろあちこち行っておるんですけど、３年前にＪＲ西日本の企画で九州に行ってきました。新幹線に乗って九州の博多と鹿児島へ行ってきたんですけど。帰りに神戸で降りようと思っておったんですけど、せっかく乗り放題の「行け行けどんどん」という企画でして乗り放題だったので、途中、広島あたりへ一度行ったことがあったので、山陽新幹線の新尾道駅、そこで一度降りました。というのも、私の妻が尾道ラーメンを食べたいと言ったので新尾道で降りました。今でいうこだま号に乗りかえて新尾道で降りたんですけど、降りたのは私の夫婦１組だけでした。降りて、尾道ラーメンを早速食べようと思ったら、駅は閑散としていて、小さい売店１個だけしかなくて、尾道ラーメンはありませんでした。駅の周辺を見ると、今のＪＲの黒部駅よりもかなり廃れていて、黒部駅よりももっと印象が悪いです。大衆食堂とかそういうのもほとんどありませんでした。駅の売店の人に聞いたら、尾道ラーメンはどこで食べられますかと聞いたら、バスで20分かけてＪＲの尾道駅へ行ったら食べられますと言われて、これはやばいところでおりたなと思って、それで、次の新幹線が来て、神戸で降りて、神戸で１泊して帰ってきたんですけど、そういうせっかく山陽新幹線に新尾道駅という駅があるのに、全然駅前は閑散としていました。

それで、仮称新黒部駅もそうならないように、これからいろいろ作戦を練って、黒部のいろんなおいしい食べ物とかいろんなものを増やして、お客さんが降りて、いろいろ宇奈

月へ行ったり、そういうようなことをやってもらいたいなというふうに、これから３年半もありますから、いろんな人の意見を聞いて準備を進めてもらいたいなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

市長

ありがとうございました。

まだ３年半と言われますけど、とにかくもう最終段階です、計画的には。計画が決まって、それから具体的な準備と工事をするのにやっぱり３年ほどかかりますので、今年度中には、計画とすればまとめるのが最終段階でありますので、いろんなご意見をいただくにはもうほんとうにぎりぎりかなというふうに思います。

そこで、新幹線新駅のまず利用者、前も何度も私は言ったことがあるんですが、１日乗降客が2,700人ということであります。そんなにおるのかという話も時々聞くんですが、いろいろと数字を検討して積み上げて足してみても、やはりそれぐらいは間違いなくおられます。１日平均2,700、もしかしたらもうちょっと増えるのかなというふうに思っています。そのもしかしたらというのは、新幹線駅、黒部のほうの駅の利用者ゾーンなんですが、滑川とか上市、立山の方が新幹線を利用されるときに、富山駅に行かれるのか黒部駅へ来られるのかの、この利便性からしたら、まだまだ黒部駅を利用してもらうチャンスというか、そういういろんな仕掛け、取り組みというのは、まだまだチャンスがある。

実は、さっき話も出ていましたが、立山黒部アルペンルートへ行くのに、黒部駅で降りていくのと富山駅で降りていくのとどっちが近いかということなんですが、ほとんど一緒です。時間的にはほとんど一緒になります。さらに、例えば、車で移動されて新幹線を利用される方が富山駅周辺の駐車場を利用するのか、黒部駅で駐車場を利用するのかといったら、それは圧倒的に黒部駅のほうが有利になると思いますので、そういう仕組みをしっかりとしていけば、今、想定している2,700人というのは、上市町とか立山町の利用者というのは一切計算しておりませんので、そういう方々が関東方面に行くときには黒部駅から乗ってもらうような、そういうような取り組みをしていかなければならないのかなというふうに思います。

そこで、今日はＪＲ駅前の方々も何人もおられるようですけれども、新幹線が開業したら、黒部、あるいは富山県東部の玄関口が、県外から来られる方につきましては、申しわけないけど、変わります。今のＪＲ駅前は玄関口ではほぼなくなって、新幹線駅前に移ってしまいます。これはもうどうしようもない。私は、上手にそこをうまくオブラートで言えば言えるんですが、変わってしまうんですから、その駅前をどうするかということについてはやっぱり考えなければならない。Ｅさんが言われるように、県外から来られた方にとって非常に親切な、そういう施設なり仕組みは考えなければならない。

例えば、新幹線でビジネス客が夜８時なり９時に黒部駅でおりられて、明日仕事をせんならんと思ったときに、そこに宿泊するところがないんですか、あるいは宿泊するに当たっても、８時、９時に腹が減っておりたときに、どこかで何かを食べるところはないんですかと言われて、ありませんというのは、やはり間違っていると私は思います。それは、県外、市外のそういう方に対する配慮が、我々地元とすれば、なされていないと私は思います。

ただ、新幹線黒部駅周辺に新しい何か、繁華街なりまちなりをつくるというような気持ちはございません。黒部市ぐらいの規模で、今の市街地なり、今のＪＲ駅前なり等に負けないようなにぎわいなりまちを新幹線の駅周辺につくろうというふうには考えていません。黒部市にはそれだけの人も力もないというふうに思いますので、便利であって、最低限県外から来られる方に対するそういうサービスというものは、ある程度のものはつくっていかなければならないだろうなというふうに思いますので、その辺の兼ね合いが非常に難しいところもありますが、やはりやるべきことはやったほうがいいだろうというふうに思います。そこに黒部市自慢のラーメンがあるかどうかはわかりませんけれども、少なくとも食事ぐらいとれるようなものはそこであってほしいというふうに思っております。

事務局

Ｅさん、よろしいでしょうか。

ほかにございませんでしょうか。

市民Ｆ

東布施のＦですが、小水力発電についてお伺いします。

現在進められている、将来的に黒部市内でさらに何か考えておられるのか、あるいは水道も、上のほうにダムがありますから、そのダムの利用などはいかがなことかというようなことを思うんですけど。

市長

小水力発電、黒部市にとっては非常に有利な発電だというふうに思っております。ただ、一方で、非常に採算性というものも大事だというふうに思っておりまして、今、国は、再生可能エネルギーといって、固定価格で買い取るということで言っておりますが、小水力あたりが幾らで買われるのか、まだ具体的にはなっておりませんが、おそらく15円から20円程度で買い上げではないかなというふうに思う。

太陽光発電の電気は幾らで買っているか。48円、今年から42円になったのかな、で買うように国が決めて、電力会社は四十何円で買っている。自分たちでつくれば当然10円以下でつくれるんだけど、四十幾らで買うということになっています。それが、だれが負担しているかということなんですが、実は我々全員が負担していると。我々が払っている電気料金の中にそういう分が全部加算されております。電力会社が損しているわけじゃなくて全部加算されているということになっております。

ですから、私は、再生可能エネルギーとか自然エネルギーとか小水力、普通でもそれだけのものなんですが、やるに当たっても、採算性を度外視したものをつくるということは、これはまずいだろうというふうに思って、宮野用水あたりはかなり有利な条件でしたから、何が有利かというと、導水路とか導水管をつくって電気を起こして、また本川なり用水に戻すというのが普通なんですが、右岸から左岸へそのまま48メーターから50メーターほどの落差で今現在落ちています、宮野用水へ水を回すたびに。そこに発電所をつくるわけですから、導水管が全く要らないということが非常に有利な点で、かなり採算性があるものですから、それはやろうということで進めてまいりました。

ただ、ほかのところでも私はやりたい、まず、水利権の問題が解決できれば積極的にやりたいと思うんですが、場所によっては、発電するためのコストがキロワット当たり40円も50円もかかるようなことだったら、私はどうかなと。今、それでもやっているところはいっぱいありますよ。県内でも、中心部の一番大きな市も9.9キロワット、約10キロワットの発電所を今計画していますが、１億円かかります、10キロワットですけど。それでは、なぜやるのかと。教育的観点、自然エネルギーの子供たちに対する教育と観光の１つの目玉というか、１つの見どころにしようということでやられます。それは力があるからやられるんだろうけれども、私は、水量も安定しているし、有利なところであれば、それは積極的に黒部市内でもやっていきたいというふうに思いますので、いろいろ、ここはどうや、ここはどうやということがあれば言っていただいて、それで、場所によっては水利権等の条件が可能なところも。

特にこういう自然エネルギーに対しては追い風ですが、さっき言ったように、国のほうも何でも認めるということはありませんので、その辺は、認めてもらえるところについては積極的にやっていきたいというふうに思っております。

事務局

Ｆさん、よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

市民Ｇ

石田のＧです。

ちょっと変なことを聞きます。ここに観光ということでうたってあるんですが、最近、生地の第一温泉ですか、やめられましたね。宇奈月へ行っても幾つかの旅館が閉店されておる。これを利用する手だてを何か考えておられないんですか、施設として。今、老人ホームが黒部市はえらい少ないということで、そういうところを、温泉もあるところを利用すれば、何とか採算がとれるんじゃないかなという気もするんですが、そういうことを考えておられませんか。

市長

ありがとうございました。

相手がある話なので、あまり具体的に言っていいのかどうかわからない。生地のやめられたところにつきましては、いろいろと私なりに調べさせていただきました。非常に条件が難しいと思いました。まずは、運営を経営しておられる方と地権者が違うということからして、なかなか難しい案件だなというふうに思ったところです。

それから、介護サービスのほうの施設につきましては、これだけ施設が足りん、足りんというか、待機者が多いと言われたら、計画される方というのがおられて、市内でも何件も具体的に計画しておられます。それを全部認めるのはなかなか難しいぐらいに着々と準備される方がおられますので、あまり行政が全面に出てやろうとしなくても、その辺は民間の方々は早いですから、今、準備しておられますので、24年度からの第５期の３年間の計画の中に幾つかは入られるのではないかなと。まだ計画を言えるような段階ではござい

ませんが、幾つかは入られる。その後もまた幾つかが計画されているので、自然とといいますか、大体期待どおりには、施設整備につきましては、黒部市内では今後は増えていくのかなというふうに思います。

ただ、一度に増えると、先ほど言いましたように、保険料にあまりにも大きくはね返るものですから、その辺は計画的にやっていかなければならないのかなというふうに思います。できれば、高齢者マンションでいろんな看護師さん付きとかというものが県内でも出てまいっておりますので、民間でやっておられますね。高齢者マンションで安心してそこに入っておられる。黒部市内にもありますか、黒部市内もそういう民間の場所が出てきておりますので、そういうところが順次計画的に増えていけばいいなと、ありがたいなというふうに思っております。

事務局

Ｇさん、よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

予定の時間までもう少しございますので、せっかくの機会ですから、どうぞご発言いただきたいと思います。

市民Ｃ

岡のＣです。

先ほどから鉄道についてばっかり言っていますが、石田の駅も建ってからもう大分たちまして、赤い、すばらしい石田の駅だったんですが、大分色がさめて、立山の地獄谷と一緒で、これで血の池かというほどさめてしまっている池なんですが、着いておりても何もないんですね。そこをずっと歩いていくと。いまでは、年寄りは自動車の免許証を返納せいと言われているように、そういうところに鉄道を利用した後の足、横のつながりなんかもちょっと考えていってもらえば、赤い屋根とか青い屋根の施設、大島キャンプ地、それから、港とかフィッシングとかいろいろな施設があるんですが、その辺をぐるっと回っていけるような、年寄りも楽に利用できような駅にしていってほしいと思います。新幹線は窓口ですから、それは立派なのにせんならんですけど、石田もたくさんの人口がいるんですから、その辺の配慮も見ていただければと思うんですが、いかがでしょうか。

市長

ありがとうございました。

一昨年かな、地鉄の駅の塗りかえを地元の方々がボランティアで、地元の方々だけではないんですが、まちづくり協議会の皆さんとか地元の方々が一緒になって、舌山の駅、浦山の駅などはペンキを塗りかえられたというような取り組みもやっていただいております。経営側に言っていても、そういうふうな改修なり整備をなかなかしてもらえないので、できるだけ地元で協力しながらやっていくというのが基本的な考え方ではないかなというふうに思います。

地鉄の話をもう一度しますと、やっぱり利用者をどうやって増やすか、これは今からやっていかないと、高齢化の中で、地鉄の駅が、今、市内に15カ所、新幹線の駅に新しい駅

をつくりますので16カ所、それから、ＪＲの駅へ行く人、黒部等ありますので２カ所、トロッコ電車の駅で人が乗り降りできるところがまだ４カ所ほどありますね。黒部市内に21カ所とか22カ所の鉄道の駅があるというのは、こういう規模の中であるというのは、ほんとうに珍しいことですし、これはまさしく財産になるというふうに思うので、それをどうやって今後とも残していくのかということについては、何よりも利用者を増やしていくということを考えていかなければ、それぞれ企業経営ですから、乗らんものを残していくということはまずあり得ないだろうというふうに思いますので、この辺の取り組みは市としても大変大事。万が一、将来なくなるようなことがあったら、これは大変な問題になろうかと思いますので、何としても残していこうというような取り組みは、これはやっぱり自分たちの問題として真剣に考えていかなければならないのではないかなというふうに思っております。

さっきＣさんが言われた、黒部支線を復活して並行在と地鉄をつなげたら、こういうタウンミーティングですからはっきり言いますと、石田と経田の駅はどうなるんですか。黒部駅で黒部支線が復活したら、そこと並行在を結んだら、そのまま富山へ行けるようになりますよね。そうしたら、石田と経田駅はどうなるんでしょうというような問題なども、これはここまで来たらちゃんと考えるというか、やっぱり言ってもらわないと。隣の市は、黒部支線の復活に非常に敏感に反応しました。なぜなら経田駅がなくなるからです。経田駅を中心に、今、いろんな整備を進めておられますので、それは困った話になるから、それは非常に敏感に反応されました。石田駅はどうなるんですかね。つなげと言われれば、そういう方法も１つあるんだけど、つなげた場合には石田駅がなくなるのかどうなのかということについては、市全体の問題ですけれども、地元の人たちが一番考えなければならない問題だろうなというふうに思いますので、そういうところはぎりぎりの議論に来ていますから、しっかりと議論がなされるべきかなと思います。

それから、並行在もそうですけれども、富山県が単独で三セクで経営した場合に、例えば、今、高岡に新しい駅をつくりましょうとか、射水でも新しい駅をつくってほしいという地元から要望が出たりしていますけど、だれがつくるのかと。要は、お金はだれが出すのということなんですが、基本的には言ったところが出すんです。並行在来線の経営会社がつくるわけでもないし、県がつくってくれるわけでもないんです。黒部市が、例えば黒部と魚津の間にもう一つ駅をつくってほしいと、田家かどこかあっちのほうにあったほうが当然便利になりますよと言えば、だれがつくるかといったら黒部市がつくる。今のルールというか、今の県の考えでは黒部市がつくる。ただし、県もそうであれば協力しましょうというふうには言います。協力とはどういうことなんだということですが、半分までは出さないでしょう。その程度のものです。ですから、その辺は自分たちもしっかり考えなければならないし、その必要性も、あるいは予算も全部しっかりと考えた上で、こうあるべきだというようなことを提案しなければならないということです。黒部―魚津間にも新しい駅をという話は、数年前は一度ありましたけれども、なかなかそれ以上進めることはできなかったです。

市民Ｃ

ちょっと聞きますが、駅の件であれですけれども、どこか山の奥の駅を２つ、３つ、駅

を塗りましたね。それで、じゃ、石田も塗るかという話もあったんですよ。でないとだれにも乗ってもらえんということで、じゃ、あの駅が雨漏りなんかがした場合に地鉄がやってくれるんですか。どうなんですか。市がやらなきゃならないんですか。

市長

基本的には、地鉄さんにお願いしていくということです。ただ、それだったらいつになるかなかなかわからないということなので、基本的には、市のものではありませんから、地鉄さんにずっと要望していくということになります。ただ、地鉄さんがいろいろ整備されても市も支援しています。いろいろ割り振りの金額というのは決まっていますので、市も支援していますので、もう少し積極的に働きかければ、ある意味では地元自治体の負担の中でこういうふうにさせてもらえんかというようなことの協議というものもあるのかなというふうに思いますので、言うからには覚悟を持って言わなきゃいけないということになるのかなと。

事務局

Ｃさん、よろしいでしょうか。

済みませんが、最初にお話ししておりました終了予定時間が近づいてきておりますので、あとお一人のご発言とさせていただきたいと思いますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。どなたかいらっしゃいませんでしょうか。

市民Ｈ

浜石田のＨといいます。

今ほどＣさんからも提案がありましたように、地元のパワーでもって石田駅を存続するということで、皆さん、力を合わせてやらなきゃならないんじゃないかと思います。といいますのは、私もすごく高齢化になりまして、子供たちに、もう車はやめろと、もうお父さんは車に乗ってはだめだということでご法度になりまして、それで今、6,300円のゴールデンパスというやつを買いまして、それで富山とか高岡とか、バスに乗りまして高岡まで行けますので、結構楽しく利用させていただいております。それに対しては、市も少しご援助のほうがあるそうなのでいただいております。ありがとうございます。そういうふうにして、残す残さないは石田住民のパワーが一番大事だと思いますので、Ｃさんの発言のとおり、彼を中心に頑張っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

市長

大変力強い発言ありがとうございました。

ほんとうにこの鉄道は何とか残さないかんかなと。また、鉄道を中心としてこの地域が発展しております。この間、地鉄の社長の話を聞いておりましたら、地鉄さんは、今、15の駅がありますが、町内単位でつくっていっておられるんですね、駅を。普通だったら、三日市の次は、荻生があって、若栗があってという、そういう単位なんでしょうけれども、地鉄は町内単位で駅をつくっていて、こんなところはないようでありますので、これを何とか生かしていく努力ということは考えていかなければならないのかなというふうに思い

ますので、ぜひ石田地区の皆さん方におかれましても、鉄道を利用するような市民運動をぜひ起こしていただければありがたいかなというふうに思います。

かなり地鉄さんもいろいろ相談を聞いていただけるような関係になりました。さっき言った駅のペイントなんかもそうですし、ワンコインで、これから新幹線の時代に向けて、もっと地鉄を利用しようというような市民運動なども一生懸命やっていますので、そういうことからしたら、今まではなかなか聞いてももらえないような話もちゃんと相談には乗っていただけるような関係になってきたのではないかなというふうに思いますので、だからといって、言ったことが全部何でもしてもらえるわけではありませんが、せっかくこういう関係になってきましたので、さらに利用促進を図れば、またいろいろと地鉄のほうも黒部地区に関してはご配慮いただけるのかなというふうに思いますので、ぜひ石田駅を中心としてまたご利用をよろしくお願いしたいと思います。

事務局

これまでいろいろなご意見をいただきましたが、予定の時間になりましたので、以上で本日のタウンミーティングを閉じさせていただきたいと思います。

―― 了 ――